

第3回 駅まちづくりセミナー 「まちなか広場の可能性を探る」

令和5年2月24日（金）に、松山市駅やJR松山駅の整備で新たに生まれる「駅前広場」が、より楽しく・多くの人で賑わう場所になるため、全国各地で取り組まれている「居心地の良い広場づくり」を学ぶ「駅まちづくりセミナー」を開催しました。

第3回のセミナーでは、「ストリートから仕掛ける都市再生」をテーマとして、新津瞬氏に「身近なストリートが豊かになることがまちや日常の暮らしの価値を高める」といった視点から、大宮駅と姫路駅周辺で取り組まれたまちづくりの事例を紹介していただきました。

その後の意見交換では、参加者の皆様から松山でまちづくりを実践していくための質問や意見をいただき、多くの人にまちづくりに参加してもらうための工夫やポイントなどを学び、考えるきっかけとなりました。

開催概要

開催日時	令和5年2月24日（金）	14：00～16：00
開催場所	KH三番町プレイス3階 第1会議室 & オンライン「Zoom」	
主催	松山市／一般社団法人松山アーバンデザインネットワーク	
参加人数	会場	16名
	Zoom	4名



プログラム

- | | |
|-------------|---|
| 14：00～14：05 | ・開会挨拶 |
| 14：05～15：20 | ・講演（新津氏）
ストリートから仕掛ける都市再生
テーマ1：さいたま市大宮駅周辺の事例紹介
テーマ2：兵庫県姫路駅周辺の事例紹介 |
| 15：20～15：25 | ・休憩 |
| 15：25～15：55 | ・参加者と意見交換（会場のみ） |
| 15：55～16：00 | ・今後の予定、閉会挨拶 |

講師



新津 瞬

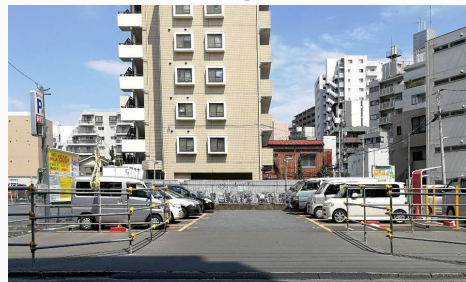
有限会社ハートビートプラン ディレクター

アーバンデザインセンター大宮[UDCO] プロジェクトパートナー

有限会社ハートビートプランディレクター、アーバンデザインセンター大宮[UDCO]プロジェクトパートナー。1987年生まれ。早稲田大学大学院建築学専攻、イタリア・フェッラーラ大学院修了。2013年より株式会社環境デザイン研究所にて主に大規模公共施設の建築設計・監理に従事し、2017年よりUDCOにて大宮駅周辺における公共空間利活用や調査研究、デザイン調整等を通じた都市再生の推進に取り組む。2021年より現職にて、松本、姫路、大阪、大宮などのまちづくりに関わる。早稲田大学非常勤講師。共著に『まちづくり図解』（鹿島出版会）

最も身近で誰もが利用可能な開かれた公共空間であるストリート
そのストリートが豊かになることがまちや日常の暮らしの価値を高める

BEFORE



AFTER



社会実験「おおみやストリートテラス」によって創出された新たなパブリックスペース
（写真提供：アーバンデザインセンター大宮）

大宮には「まちに奥行きがない」「まちなかに憩う場所がない」「大規模公共空間ができて誰が運営できるのか？」という課題があった。こうした課題を抱える中で、UDCOとしてストリートを使った「おおみやストリートテラス」に取り組んだ。「おおみやストリートテラス」とは、街路・沿道の一体的利活用により、大宮らしい新たなパブリックスペースの創出を目的とする社会実験で、市民や事業者の反響は非常に良く、この取り組みによって歩行者交通量は倍近く増え、出店や沿道店舗の売上がアップするなど、取り組みは徐々にステップアップしていった。

ストリートデザインを実現する沿道経営体の創出の裏側とは… 裏ページへ

◆ テーマ1：さいたま市大宮駅周辺の事例紹介

ストリートデザインによる“新たな活動・経済効果・沿道経営体”の創出

やはりまちづくりに取り組むときに、万遍なくしないといけないと思われがちですが、まずどこで集中的に取り組んでいくのか、戦略を考えることも1つの大事なポイントです。その戦略を実行するストリートの1つとして、一番街というアーケード商店街にてストリートテラスを実施しました。取り組みは2020年コロナ禍に開始しました。この商店街は飲食店中心でしたのでコロナ禍で相当厳しい状況だと聞き、商店街の会長と「できることがあるなら一緒にやりましょう」ということでストリートテラスが実施されました。その内容は、店先の道路で占用許可を取り、テーブルや樽を置いて飲食スペースを確保するなど、様々な軒先活用をしました。その結果、商店街に賑わいが生まれるだけでなく、店舗の売上も上がりました。あるお店ではテラス席だけで全体の1割もの売上が出たそうです。こういった共通の取り組みを通じて商店街・店舗間の交流が増え、コミュニケーションも増えました。商店街の人からは継続的に取り組みたいとの声も頂き、こういった社会実験の取り組みに結果が伴うことで、ステークホルダーの意識を醸成することができるのだと感じました。

(写真提供：アーバンデザインセンター大宮)



街路・沿道の一体的利活用



白線までを道路占用で活用



店舗前テラスに植栽や樽を設置



姫路駅前広場



樽の上で賑わう人たち

◆ テーマ2：兵庫県姫路駅周辺の事例紹介

沿道事業者による活用で機運を作る

姫路駅前には姫路駅と姫路城を結ぶ「大手前通り」という全長800mの通りがあり、歩道がかなり広く整備されています。駅前広場はトランジットモール化され、人中心の広場の成功例として有名です。そういったこともあり、姫路駅周辺の不動産価値は向上している一方で、駅前の賑わいは「大手前通り」まで波及しませんでした。原因として、沿道建物の1階は銀行やオフィスなど閉じた用途が多く、商業用途が乏しいことが考えられました。また、大手前通りは通過動線として利用されることが多く、地元の人には1つ後ろにある商店街通りを通るばかりでした。こうした課題を解決するために街づくり協議会をはじめとした沿道事業者により、2019年に「ミチミチ」という社会実験を実施しました。大手前通りの広い歩道空間を活用し、樽を組んで憩いのスペースにしたり、沿道店舗の客席として活用してもらいました。こうした社会実験の結果、「大手前通り」が「ほこみち」制度の指定を受け、昨年8月から歩道を活用しています。実施から3か月後に店舗へヒアリングをすると、ほとんどの店舗で売上・集客などに良い効果があり、今後も継続的にやりたいとの意向を持っていました。こうした魅力的なコンテンツと賑わいの創出によって、事業収益の拡大、人が賑わう場所になる、という良い循環が少しずつ出てきています。

- 一番街のストリートテラスで屋外テラス席を設置するときに課題はありましたか。
 - ▶ テラスを店舗側に設置するパターン、道路の真ん中に設置し店舗側を歩行者導線とするパターンなど組み合わせなかったのですが、警察から歩行者導線が蛇行する構成は難しいと指摘され制限があったことです。
- 大宮で取り組まれた社会実験の実行委員会に入ると活動が活性化するような人材はいるのでしょうか。
 - ▶ やはり1番は高校生が入ったことです。価値観が全然異なり、高校生視点からの発言は新鮮で、熱意もありますし、共通理解を生むのにとっても良い媒介となってくれます。また、色々な属性の方に入ってもらい、価値観を色々な世代・属性の方と共有していくことも大切です。
- イベントの告知や集客をする際にSNSを活用するなど、何か工夫したことはありますか。
 - ▶ アーバンデザインセンターのホームページ、SNS全般で告知することはもちろん、関係者のSNSでハッシュタグを付けて発信してもらうこともしました。その他にも駅前的大型ビジョンを運営している会社と協力し、放映してもらったり、イベントの様子を生中継してもらうこともありました。
- 地元の方に主体性を持っていただき、関与の度合いを上げ、やる気にさせるためのコツや秘訣などはありますか。
 - ▶ 「出店してください」「〇〇をやってください」と言わない、お願いしないことです。あくまで一緒に取り組んでいく仲間として、立場は対等にすることが重要です。ただし、距離感があるような言い方はダメで、難しいことですが相手に合わせた対応をすることが大切です。
- 最初誘いを断られた方が、実践していく姿を見て「一緒にやりたい」と後で仲間に加わったことなどあったのでしょうか。
 - ▶ そういう方も結構います。こちらの取り組む姿勢を見せて本気度が伝われば、そういうことはもちろんあります。
- 大宮の各所のイベントは1回限りだったのでしょうか。また、イベント時のコンパネやブースの設営などはどうしたのでしょうか。
 - ▶ 社会実験は年1回の開催で継続的に実施しました。コンパネは私たちの手作りで、1度作ったものを再利用しています。ブースの設営は出店者の方にやってもらい、ときには維持管理も手伝ってもらったりなど、色々な役割を担っていただくことでノウハウを蓄積することもできました。